

II-431

磯名にみる環境認識に関する研究

茨城大学大学院 学生員 秋元宏弘 茨城大学工学部 正会員 志摩邦雄
 茨城大学工学部 正会員 小柳武和 立命館大学理工学部 正会員 笹谷康之

1. はじめに

最近、水辺の親水性が見直されてきており、それに伴って機能重視の構造物が減少の傾向にあると言える。しかし、これらの海岸開発、整備は、時として陸上施設のデザインにのみ考えが偏り、海で体験できる独特の景観体験を再現することが未だなされていないのが現状である。

そこで、本研究では、砂浜と共に人々に親しまれ、また、水産資源が豊富で漁労やレクリエーションに利用されている磯場、特にその磯名に着目する。磯名は、漁師や釣り人またはその地域で生活を営んでいる人々が、磯を意識し、意味付けを行った結果ついたものであり、いわばその環境を端的に表した呼称である。

これらより、本研究の目的を以下の2点とする。また、茨城県日立海岸および那珂湊・大洗海岸を調査対象海岸とする。

- ① 磯名を命名方法により分類し、人々の磯場に対する環境認識を明らかにする。
- ② ①を受けてデザイン、設計に生かせるボキャブラリーを抽出する。

2. 研究の手順・方法

研究の方法として、ヒアリング調査^{1) 2)}および文献調査から磯の名称の抽出・分類を行い、磯名から環境を表すボキャブラリーの抽出を行う。

3. 調査対象海岸

日立海岸は、茨城県の岩礁域の約半数を占め、貴重な自然生態系を多く残している地域である。しかし、海岸域の6号バイパス開発により、海岸環境が大きく変化し、今後の海岸整備が大きな課題となっている地域である。

那珂湊・大洗海岸は、海岸整備が盛んに行われ、県内において海水浴場を始めとし、観光、レクリエーション、好漁場として重要な位置を占めている。

4. 調査結果

4-1. 磯名の抽出・分類

磯図より磯名を日立海岸では124個、那珂湊・大洗海岸では205個抽出した。図-1に、那珂湊・大洗海岸の磯図の例を示す。これら磯名は、環境、位置、伝説、その他の4つに大別でき、命名の由来より13分類できた(表-1)。

1) 環境

水産物、形状、状態の3つに小分類できる。水産動植物の命名では、エビ、スズキ、カキ、アワビ、海藻類のワカメ、アラメ、ヒジキなどの名前が付けられ、これより人々の生活において磯漁、磯採取が重要なものであったことが理解できる。また、「タタミ磯」、「潮吹」等の磯名から、磯の形や磯周辺の潮の状態を理解し、漁を行っていたことが分かる。

2) 位置

位置、漁業、アテに小分類でき、由来から4タイプに分類できる。位置では、漁村または地名との位置関係から命名されている。「前磯」は、漁村の前面に位置していることから名付けられている。漁業

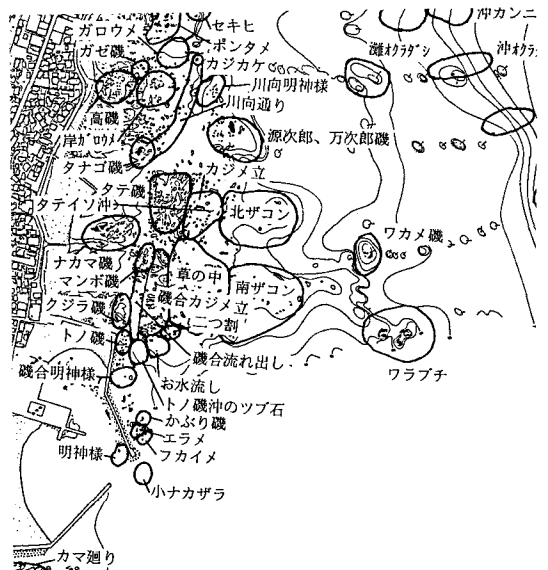


図-1 那珂湊・大洗海岸の磯図

表-1 磯名の由来

大分類	小分類	命名の由来	日立海岸	那珂湊・大洗海岸
形態	水産物	水産動植物名	アイナ磯、カキ磯、アワビ磯 ワカメ立、エイ貝棚、カジメ浦	エビ宝磯、アラメ磯、ヒジキ磯 ワカメ立、カジメ立、ワカメ磯 スズキ磯
	形状	磯自体の形や色	鍋磯、鍋島、馬の背、馬の瀬 タタミ磯、カラカサ磯、 とうふ岩、 <i>たふろ</i> 、 <i>たふろ</i> 、 <i>たふろ</i> 、 <i>たふろ</i> 太田尻磯	タタミ磯、三角磯、ナガイメ ホジャリ、赤磯、箱磯、牛磯 ナガイメ、クビシメ、ゆれ磯
	状態	磯周辺の潮および 日の出等の状態	ベリヤジ、 <i>ベリヤジ</i> 、 <i>ベリヤジ</i> 、 <i>ベリヤジ</i> 神峰モジ 潮磯	潮吹、流れ出し、磯合流れ出し かぶり磯、 <i>かぶり磯</i> 、 <i>かぶり磯</i> お水渡し、沖サラン
位置	位置	漁村から見た位置 関係	前磯、中磯、北磯	中の浦、中磯
	位置	固有の地名、また その場所から見た 位置関係	北タイザ、南タイザ、北川 初崎磯、泉川、滝川	川磯、 <i>川の</i> 、 <i>川の</i> 、 <i>川の</i> 、 <i>川の</i> 南ザコン
	漁業	漁業、船の出入り に関係がある	出口磯	平戸門、大門、舟入り、舟床 ナウキリ
伝説	アテ	ナビゲーションの 目標となる陸上の 地物名	二本松瀬、二本松、寺山ザク 滝の下、ハギヤノ台	灯台下、仙台山、日和島 江戸の下
	伝記	神を祭る、漁の安 全を祈願した根	明神磯、御根磯、虎ヶ磯 七夕磯、オサガメ磯、小磯様 泉林様	明神磯、八幡磯、川向明神様 与力様
	伝承	伝記、伝承	七夕磯、オサガメ磯、虎ヶ磯 大亀磯	
その他	人名	人名	蔵左衛門流し、権現磯 久七山、 <i>久七山</i> 、 <i>久七山</i> 、 <i>久七山</i>	源次郎・万次郎磯、忠助磯 <i>忠助</i> 、 <i>忠助</i> 、 <i>忠助</i> 、 <i>忠助</i>
	時代	命名時の時間的遠 いを相対的に見た もの	新山、新根	
	複合	環境、位置、伝説 などが混然となっ ている	天神出し、北の <i>北</i> 、中の <i>中</i> 南の <i>南</i> 、河原子出し	磯合流れ出し、釜口流れ出し 磯合カジメ立つ、川向明神様 ト磯沖のつ石、北まるい磯
その他	その他		パンスケ、ノーナシ、シン タナマエ	ガーロメ、タカミ、ヤッコラ ナーデ

3)伝説

伝記・伝承、人名に小分類でき、由来から3つに分類できる。一つは、神を祭った、漁の安全を祈願したという神磯である。現在でも日立市北部の川尻港では元日の日に神磯の周りを一回りしてから漁に出かける。古くは、この磯に当たる潮の状態から漁の出航を決めていたという。これらの神磯の中には伝説を持つ磯もある。また、「蔵左右衛門流し」や「源次郎・万次郎磯」といった人名が付けられている磯は、昔その磯で難破した人の名であったり、その磯の発見者であったとされている。

4)その他

時代、複合、その他に分類できる。時代とは、磯の命名時期の時間的順序により、新古が名称に付けられたものである。

4-2. デザインボキャブラリーの抽出

斉藤³⁾は、人間が目目してきた海岸景観とその体験のしかたを語彙集、名所図解から「アテ」、「ウオミ」、「ヒヨリミ」という景観体験の典型を明らかにした。本研究では、磯名にみられるボキャブラリーの抽出を行った(表-2)。

これより、磯の状態を表す語彙を7つ抽出でき、磯の形・色(28.3%)、位置(21.9%)を表すものの割合が高いことが明らかになった。潮の状態、磯の形状と位置を深く認識することが、磯漁に携わる人々にとって重要であったことが読みとれる。

5. まとめ

- 本研究のまとめを以下に示す。
- ① 磯名の命名方法による分類が行え、それによって磯場における人々の環境認識を明らかにした。
 - ② 磯名よりボキャブラリーを7つ抽出した。

最近、磯名もあまり使われず、忘れ去られる傾向にある。今後、海岸の開発、整備において、環境を端的に表すボキャブラリーを用いてネーミングを行い、後世に豊かな環境を伝えることが必要である。

参考文献

1)桜田勝徳：漁労の伝統、岩崎美術社、1985。
2)辻井善弥：磯漁の話、北斗書房、1977。
3)斉藤潮：海岸景観およびその体験の典型に関する研究、日本都市計画学会論文集、pp391-396、1985。

に関連するものでは、「出口磯」や「平戸門」、「舟入り」などがあり、これらは舟の出入りに使われていた場所を表している。陸上の地物から命名されたものとしてアテが挙げられる。アテとしての山や灯台、樹木のみえ方からその漁場が目標物の名称を持って呼ばれた。アテは自己の位置を確認するだけでなく、漁場の境界、区分けにも使われた。